

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5241297号
(P5241297)

(45) 発行日 平成25年7月17日 (2013. 7. 17)

(24) 登録日 平成25年4月12日 (2013. 4. 12)

(51) Int. Cl.

F 1

A 4 5 D 33/00 (2006.01)

A 4 5 D 33/00 6 2 5 C

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2008-98799 (P2008-98799)
 (22) 出願日 平成20年4月4日 (2008. 4. 4)
 (65) 公開番号 特開2009-247576 (P2009-247576A)
 (43) 公開日 平成21年10月29日 (2009. 10. 29)
 審査請求日 平成23年2月22日 (2011. 2. 22)

(73) 特許権者 000158781
 紀伊産業株式会社
 大阪府大阪市中央区本町 1 丁目 3 番 2 〇 号
 (74) 代理人 100091683
 弁理士 ▲吉▼川 俊雄
 (72) 発明者 西川 浩二
 大阪府藤井寺市川北 2 丁目 2 番 4 号 紀伊
 産業株式会社 品質保証部内

審査官 近藤 裕之

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】化粧料容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

化粧料収納部と化粧用具収納部を有し、スライド式の蓋を備えた化粧料容器であって、
 上記化粧用具収納部の底面に 2 つのリブを所定の間隔で設置し、断面が円形または楕円形
 の軸および上記軸の両端に位置する 2 つのチップからなる化粧用具の軸を上記 2 つのリブ
 によって 2 点で保持し、

上記 2 つのリブは、前記化粧用具の軸が上記リブ上で回転した時に、上記化粧用具のチ
 ップが上記化粧用具収納部の底に接触しない高さに形成されていることを特徴とする化粧
 料容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、化粧料及び化粧用具を収納する化粧料容器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、アイシャドウ等の化粧料を収納する化粧料容器には、仕切りを設けて、化粧料と共
 に上記化粧料を付けて顔に塗るためのチップやブラシ等の化粧用具も一緒に収納する容器
 が用いられている。

【0003】

このような化粧料容器には、化粧用具を固定して収納するために、化粧用具を保持する構

10

20

造を用いている容器もある（特許文献 1、2 を参照）。

【特許文献 1】実開昭 63 - 88216 号公報

【特許文献 2】特開平 9 - 131216 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

従来の化粧料容器としては、蓋が蝶番で開閉可能に取り付けられた容器、あるいは蓋をスライドさせるタイプの容器等があるが、上記スライド式の蓋の場合、蓋をスライドさせて閉める際に、収納してある化粧用具の向きによっては蓋に引っ掛かってしまうという問題があった。

10

【0005】

対策としては、容器の高さを高くして、化粧用具収納部の深さを化粧用具の向きに関係なく完全に収めることのできる深さとする方法が考えられるが、この場合、容器が大きくなり、嵩張ってしまうという問題がある。

【0006】

また、特許文献 1、2 に記載されているような化粧用具を保持する構造をスライド式の蓋を有する化粧料容器に用いることも考えられるが、上述の化粧用具を保持する構造は、化粧用具を挟み込んで保持する構造であるので、化粧用具を収納する際に挟み込む手間がかかるだけでなく、化粧用具を取り外す時にも手間が掛かるという問題があり、外出時に手軽に使用するには不便である。

20

【0007】

そこで、本発明は上記問題を解決するために、化粧用具を収納して蓋を閉めた時に、スライド式の蓋に挟まらないように収納することができる化粧料容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明の化粧料容器は、化粧料収納部と化粧用具収納部を有し、スライド式の蓋を備えた化粧料容器であって、上記化粧用具収納部の底面に 2 つのリブを所定の間隔で設置し、化粧用具を上記 2 つのリブによって 2 点で保持することを特徴とする。

【発明の効果】

30

【0009】

本発明の化粧料容器は、化粧料収納部と化粧用具収納部を有し、スライド式の蓋を備えた化粧料容器であって、上記化粧用具収納部の底面に 2 つのリブを所定の間隔で設置し、化粧用具を上記 2 つのリブによって 2 点で保持することにより、化粧用具を適切な向きに整え、スライド式の蓋に挟まるのを防止することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

本発明を、図を用いて以下に詳細に説明する。図 1 が本発明の化粧料容器 1 の斜視図であり、図 2 が化粧用具 8 を収納した状態の平面図である。

【0011】

40

本発明の化粧料容器 1 は、化粧料収納部 4 と化粧用具収納部 5 を有する容器本体 2 と、スライド式の蓋 3 からなる。上記蓋 3 は、上記容器本体 2 に設けられた溝 7 にスライドして上記容器本体 2 の開口を塞ぐ構造となっている。

【0012】

そして、上記化粧用具収納部 5 の底面には、2 つのリブ 6 を所定の間隔で設けている。上記リブ 6 は、上記リブ 6 の上に化粧用具 8 を載せて上記蓋 3 を閉めた時に、上記化粧用具 8 と上記蓋 3 が接触しない高さとしている。

【0013】

さらに、2 つの上記リブ 6 の間隔は、上記化粧用具 8 を上記リブ 6 に載せた時に、上記化粧用具 8 が傾いたりすることがなく上記化粧用具 8 を保持できる間隔とする。

50

【 0 0 1 4 】

上記リブ 6 の高さおよび間隔は、上述のような条件を満たせば、上記化粧用具 8 の種類に応じて適宜変更可能である。

【 0 0 1 5 】

上記リブ 6 の断面形状は、本実施形態では矩形としているが、特に限定するものではなく、三角形あるいは半円形等、様々な形状を用いることができる。

【 0 0 1 6 】

上記リブ 6 を設けることにより、上記化粧用具 8 を収納する際に向きが整えられ、上記蓋 3 をスライドさせて閉める際に、上記化粧用具 8 が挟まることなく。

【 0 0 1 7 】

これは、上記化粧用具 8 を上記リブ 6 の上に載せると、例えば、上記化粧用具 8 の軸の部分の断面が楕円形状をしている場合、上記化粧用具 8 のチップ 9 が横向きになるように、軸の部分の部分が回転し、図 3 の断面図に示すように、上記化粧用具 8 の向きが整えられ、上記化粧用具収納部 5 から上記化粧用具 8 が突出することがないので、図 4 に示すような状態で、上記蓋 3 を閉めても上記化粧用具 8 が挟まることはない。

【 0 0 1 8 】

また、上記化粧用具 8 の軸の部分の断面が円形の場合でも、上記化粧用具 8 が上記リブ 6 に保持されることにより、上記チップ 9 が上記化粧用具収納部 5 の底と接触せずに浮いた状態となっているので、たとえ、上記蓋 3 を閉めた時に上記チップ 9 の向きが立て向きになっていて上記蓋 3 と接触したとしても、上記化粧用具 8 が上記リブ 6 上で回転し、上記チップ 9 が簡単に横向きとなるので、上記蓋 3 に挟まれることはない。

【 0 0 1 9 】

このように、本発明の化粧料容器 1 は化粧用具収納部 5 に 2 つのリブ 6 を所定の間隔で設けることにより、化粧用具 8 の向きを整え、蓋 3 をスライドして閉めた時に、上記化粧用具 8 が挟まることを防止することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 0 】

【 図 1 】 本発明の化粧料容器の斜視図である。

【 図 2 】 本発明の化粧料容器の平面図である。

【 図 3 】 図 2 の A - A 断面図である。

【 図 4 】 化粧用具を収納し蓋を閉めようとする状態を示す斜視図である。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 1 】

- | | |
|---|---------|
| 1 | 化粧料容器 |
| 2 | 容器本体 |
| 3 | 蓋 |
| 4 | 化粧料収納部 |
| 5 | 化粧用具収納部 |
| 6 | リブ |
| 7 | 溝 |
| 8 | 化粧用具 |
| 9 | チップ |

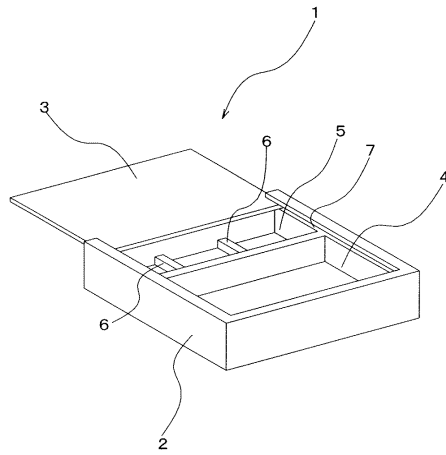
10

20

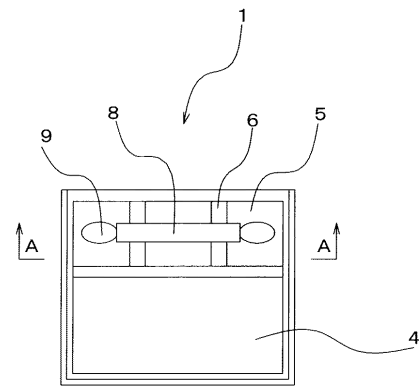
30

40

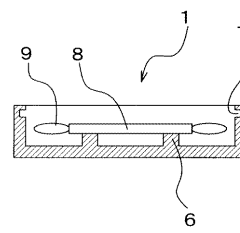
【図 1】



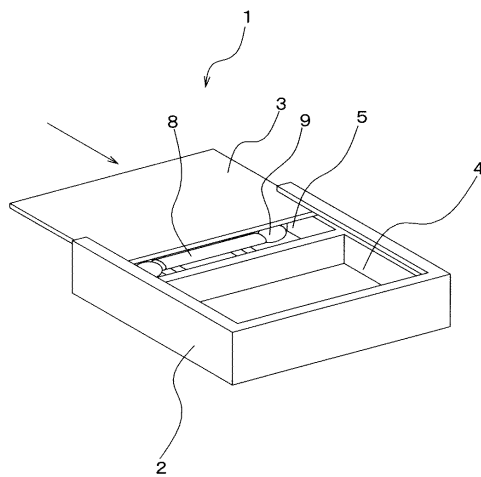
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開平03-084014(JP,U)
実開平01-101407(JP,U)
実開平03-084011(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A45D 33/00